東部・西部社会教育研修センター対象別研修(兼)　市町村社会教育担当者研修

公民館等職員研修

「種」から住民とともに育てる事業づくり

全５回シリーズ

R5・6・29（木）

第３回～「事業実施に向けての悩みをみんなで解決」～

【演習④】■事業計画案についての情報交換

第２回で紹介した内容から、工夫や変更した点を中心に紹介する。
グループの他のメンバーは、｢いいな｣｢こうすればどう｣などを伝える。

○チャレンジキャンプ(中学生の居場所づくり)
・仲間や参加者に期待する思い(思いがカタチに･達成感等)を追加
今後の期待する姿のイメージを持つといいな!

○わらわら!【○○版】多世代交流みんなでわらぞうりづくり
・事業名を柔らかなものに変更
・事業作りの種→地域の現状を別の角度から捉え加えた
・仲間を絞った
わらぞうりを作れる地域の方がいれば、巻き込めるといいね！

○楽しいことするけぇ　来てみちゃん祭（○○サロン交流会）
・事業名は楽しそうと高評価
・中学生(職場体験に来る)も巻き込みたい
・期待する思いをセンター内で共通理解
仲間の人数を絞ったのがいい!多いとかえって主体性が出にくいかも

■事業を進めるにあたっての困り感の共有と解決方法の模索

仲間を巻き込み事業を進めていくうえで、不安や困難が予想されることについて、｢これだけは解決しておきたい｣ことを２つフリップに書く。

打合せに参加して欲しい、去年の参加者が来てくれるか

参加の仕方柔軟に
働きかけにも協力してもらう

仲間　何度も打合せがあるが協力してくれるか

ベテランから反対意見が出て、仲間がやる気を失わないか

声かけ
付箋活用し進め方工夫
話し合いの約束
事前に根回し
（会の目的共通理解）

参加対象がピンポイントだが、来てくれるか

まず｢見本市｣
お弁当あるよ！
できない背景・要因をリサーチ

(中学生対象だが)大人が意見を出しすぎないか

背中を押す

当日、やることが多すぎないか

シリーズ化しては
教える側の人を増やす
コーナーつくり対応

【説明②】事業評価の必要性とポイント

東部社会教育研修センター 調整監　橋津　健一

事業評価とはその事業をさらに良いものにしていくための取り組み

評価については、社会教育法第32条、まちづくりセンター･コミュニティセンター等の制度や条例においても示されている。

事業評価とは、事業改善の資料を得るための手段
・目標達成をなしとげつつあるか(なしとげたか)
・参加者がいかに反応しつつあるか(反応したか)
・次回の事業をより生産的にするためには、そこから何を学ぶべきか
・参加者に変容をもたらしたか

◆事業評価の基本的な三原則
・他人による評価よりも自己評価の道具を大切にすべきである
・評価のプロセスには必ず事業計画の立案者をいれよ
・評価を行う場合は、活動や費やされたエネルギーよりも成果や結果に関心を示せ

◆事業評価のタイミングと項目例
【事前】目標(波及効果)、事業計画、PR、参加者など
【事中】活動の実施過程の点検など
【事後】活動の最終点検とまとめ(成果と課題)など

◆事業評価の対象と方法
【対象】内部･･･本人、参加者、関係者　外部･･･第三者
【方法】調査法(質問紙法･調査票法･面接法･観察法)
話し合い
事業評価で、事業の改善や充実を図る･無駄を省き効率化を図る

◆教育活動の評価
事業評価≒社会教育の教育活動の評価
教育活動の評価のこころえ　　ほめて　認めて　感謝する
→（コミュニケーションの機会増、関係性良、勇気･やる気が出る、パフォーマンスUP)
→成長が促される!?

◆事業評価の目的
参加者の主体的な動きを促す

【演習⑤】評価指標の作成

○事業計画シートの｢仲間｣に期待する思いを評価するための指標(アンケート項目)を考える
○事業アンケート(例)をみて、書き方のポイントをつかみ「事業アンケート｣を手書きで記入する

＊この研修において重視したい事業評価のポイント
1)評価者　　　：今回は、学習者(仲間)
2)評価のねらい：仲間の主体的な動きを促す
3)評価の方法　：計画段階、準備をしている時、事業当日の仲間の変容を調査

具体的な方法として、
①アンケート･･･意識、感じ方の変化
②観察･･･表情や行動の変化
③話し合いやインタビュー･･･発言回数･内容の変化
④資料活用･･･出席率などの変化
今回はアンケート

・高い確率で全員から調査できる
・自己評価が主体的な動きを促すのに有効

事業アンケート（実行委員会　用）　お名前

この度は、事業に参画して頂きありがとうございます。皆さんのお気持ちやお考えを把握させていただくため、以下のアンケートにご協力ください。

それぞれの質問に「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」でお答えください。

	事業を計画しているとき	事業を準備しているとき	事業の当日
1	みんなで楽しく話し合いができた。	みんなで楽しく協力して準備ができた。	みんなで楽しく協力して事業を進めることができた。
2	話し合いの中で進んで自分の意見を言うことができた。	進んで自分の役割を果たすことができた。	進んで自分の役割を果たすことができた。
3	参加者の立場に立って計画することができた。	参加者の立場に準備をすることができた。	参加者の立場に立って運営をすることができた。
4	実行委員会メンバーそれぞれの良さが分かった。	実行委員会メンバーそれぞれの良さが分かった。	実行委員会メンバーそれぞれの良さが分かった。
5	活動を通して、実行委員会のメンバーのつながりが強まった。	活動を通して、実行委員会のメンバーのつながりが強まった。	活動を通して、実行委員会のメンバーのつながりが強まった。

◆項目･･･計画･準備･当日も｢時期｣に合わせて
項目で拾えない思いは自由記述で
◆回答の選択肢
表現(言葉･数字など)、段階(数)
変化が読み取れるように、回答者の負担を考慮
◆項目数･･･回答者の負担を考えて、必要最低限で

【演習⑥】事業計画案の今後の見通し

○今日の研修を受けて修正が必要となった箇所を直したり、事業実施に向けて個別に相談する

【説明】事業の記録について（事業アンケート）

記録・広報・発表等のための資料集め
目的･･･事業成果の見える化

第５回の実践発表会に向けての資料集めについて
○発表会で伝えること
・事業の概要(企画から当日、事後)
・事業の効果、｢仲間｣の変容
事業評価、｢仲間｣の評価

○プレゼン資料の見本から効果的に伝えるポイントについて学ぶ
・写真･･･多くの情報を分かりやすく伝える
当日ばかりではなく、計画･準備の場面も
・感想･･･アンケートやインタビューから
・募集チラシや広報誌など
・イラスト･･･想像力をかき立てる
・グラフ･･･変化の見える化
・運営資料･･･具体的なイメージを伝える

【ふり返り】（今日の研修で、一番心に残ったこと）

・参加者･仲間の立場･気持ちを考えて行動する
・評価とは、さらに良いものにしていくための取り組み！！
・事前･事中･事後のつながり

受講者アンケートから　（一部抜粋）

■アドバイスなどで安心して研修に取り組むことができた。次回、開催から研修までの期間が長く少し不安に思う。
■事業づくりのイメージをより理解できた。
■評価指標シートの作成がうまくいかなかったが、共有することでヒントを見つけることができた。午前中に行った困り事のグループワークも考え方を変えるとプラスの考えになることに気づけた。第4回に向けて頑張りたい。